

支え合う関係・ベストパートナー

銀盤に新しい風

岩手カーリング界

期待の姉弟

カーリング選手

松原理桜さん × 永和さん



「お互いに支え合いながら幸福を追求していくことができる地域社会」の実現を目指して邁進する人々の姿を紹介します。

岩手はカーリングが盛んな地域。オリンピック選手を輩出するなど、盛り上がりを見せています。

盛岡市アイスリンクでカーリングの練習をしているのは、松原理桜さんと、永和さんの姉弟。二人は盛岡カーリングスポーツ少年団に所属し、ミックスタブルスではペアを組んで大会に出場する、期待のカーリング選手です。

弟の永和さんは、2021年2月に開催された、冬季オリンピックの代表選考を兼ねる、「第38回全農日本カーリング選手権大会」に「チーム岩手」の一員として出場。当時、小学校5年生だった永和さんは、全8投のうち、5投目と6投目を担当するサードに抜擢され、大会史上男子最年少の選手として活躍しました。また、「東京2020オリンピック競技大会」の開会式で、聖火

ランナーの大役も務めました。

永和さんがカーリングを始めたきっかけは、お姉さんの理桜さん。先にカーリングを始め、小学校5年生の時に全国大会で準優勝に輝いた理桜さんを見ていた永和さんは、自分もやってみたいと思ったそうです。それから二人は切磋琢磨しカーリング選手として成長してきました。

練習中の二人はとても仲が良く、リンク内に笑い声が響きます。しかし、試合になると真剣そのもの。

理桜さんが「永和とのペアが一番うまくいく」と言うと、永



りお 松原理桜さん

岩手大学教育学部附属中学校2年生。「第1回全農杯 全日本小学生カーリング選手権大会」で準優勝。「第29回日本ジュニアカーリング選手権大会」出場。



とわ 松原永和さん

岩手大学教育学部附属小学校6年生。「第38回全農 日本カーリング選手権大会」に最年少で出場。「2021東北ジュニアカーリング選手権大会」出場。姉弟のペアで「第15回東北ミックスタブルスカーリング選手権大会」出場。



「東京2020オリンピック競技大会」開会式にて、聖火ランナーを務める松原永和さん(右から2番目)。(写真: Agencia EFE/アフロ)

和さんは「理桜は、ポジティブな心の持ち方がすごい」と、お互いをリスペクト。二人でオリンピック選手になるのが目標だと語ります。盛岡カーリングスポーツ少年団の指導者である田村暁智さんあきともも「二人で技術を高めあつてほしい」と期待を寄せています。今後の姉弟の活躍から目が離せません。

●取材協力  
盛岡市アイスリンク  
(みちのくココ・コーラボトリングリンク)